

ひいひいはあはあ 巡礼の旅

よく趣味は何かと聞かれま
す。中学時代に切手の収集を
始めたのですが、お金持ちの
子が高価な切手を自慢するの
を見て、バカバカしくなりす
っかり興味を失いました。

以来無趣味を通してきまし
たが、現役を退いてからお寺
巡りを始めました。これまで
千を超えるお寺を訪ねました
が、なぜか有名な観光寺院よ
りも山寺の佇まいの方に強く
惹かれます。その山寺、多く
は車で参拝出来るものの、中
には本堂まで数百段の石段が
待ち受けているお寺もありま
す。

森の中の苔むした石段を一
歩一歩登るのですが、年を重
ねるに従って「ひいひいはあ
はあ」と荒い息をつき、途中
で何度も膝に手をつけて休む
ようになりました。火野正平
が自転車で旅する番組があり
ますね。希代のプレイボーイ
が登り坂をひいひい喘ぎなが
らペダルを踏む姿は番組の売
りになっています。しかし彼

ほどの色気も愛嬌もない私の
姿は、単なる爺の断末魔にし
か見えません。

話が横道にそれてしまいま
したが、仏に至る長い石段は
人生に似て、登る者の喘ぎは
人生の苦悶の象徴とも思えま
す。その険しい石段を登り切
り、森閑とした空気の中で千
年を経た仏像と向かい合うと、
おのずと己の小ささを思い知
ります。そして、人をむやみ
に攻撃したり、非難したりす
る愚かさに気付くのです。そ
の気付きの深さは、登ってき
た石段の険しさに比例してい
るように思えます。

ひいひいはあはあ 終わり
なき巡礼の旅は続きます。